

わおん 通信

2025
vol.54

CONTENTS

P1 P2

おもしろ環境まつり2024
災害と気候変動との関連が学べる講座を開催
和歌山県地球温暖化防止活動推進員 養成講座
リアル『もったいないキッチン』料理教室を開催

P3 県情報

令和6年度わかやまこどもエコチャレンジ活動レポート
入賞者の表彰式を行いました！

P4 INFORMATION

おもしろ環境まつり2024

2024年12月8日
おもしろ環境まつり実行委員会
みその商店街アーケード

おもしろ環境まつりを今年もJR和歌山駅近くのみその商店街アーケードで開催しました。このイベントは、市民団体、企業、自治体、地域住民などの協力によって毎年開催しています。8回目となる今年は、小学生と保護者を対象とした体験型の出し物を含め、40ブースが出展しました。川の生き物を探すコーナーや、手回し発電機で電車の模型を走らせるコーナー、災害時に外国人を助ける「やさしいにほんご」を体験できるコーナーなど、こどもたちだけでなく大人も楽しみながら「エネルギー」「食べものと水」「ごみゼロ(3R)」「生き物(生物多様性)」「気候変動」「防災・減災」の6つのテーマについて学べるブースが会場に並びました。

また、会場のステージセットには、第1回おもしろ環境まつりから関わってくれている和歌山市出身のアーティスト、石田真也さんがプロデュースした海洋



保冷剤を作った消臭剤づくり
(エコランドいと・はしもと)



川の生き物を探してのぞいて調べよう！(和歌山県環境衛生研究センター)



ステージセットについて、石田さん(右)と枝倉丸さん(中央)、司会者(左)が話す様子

漂着ごみを使ったアート作品を設置しました。ステージセット作成について、石田さんは「今年は漂着ごみの量が少なかったため、環境面としては良いことですが、集まったものから制作アイデアを考えるのに苦労しました。」と述べていました。石田さんの作品は、海に漂着したごみを中心に制作されたおもしろ環境まつりを象徴するモニュメントです。かつて誰かの役に立っていたものが新たな形で生まれ変わったもので、それぞれのパーツが元はどのように使われていたかを想像する楽しみもあります。来場者は、作品を見て驚き、次々とスマートフォンで撮影していました。ス



オリジナルエコバックづくり
(大栄環境株式会社)

ページでは、今年も落語家の桂枝曾丸さんによる防災トークや、SDGs BOYsによるSDGs漫才、和歌浦小学校の児童による環境活動発表など、さまざまなプログラムを実施しました。また、こどもたちが夏休み中に地球温暖化対策に取り組んだレポート「わかやまこどもエコチャレンジ」の表彰式を行い、作品のテーマや取組内容のレベルの高さに来場者の注目が集まりました。

環境問題への関心は一過性で終わることなく、日々の暮らしに浸透することが重要です。おもしろ環境まつり実行委員会では、「おもしろさと深い学びの機会をつくる」ため、出展内容について出展者側と事前に入念な打ち合わせを行っています。特に今年は出展者に出展の趣旨を明確にしてもらいました。イベント参加者からは「ごみを減らす必要性を改めて学ぶことができた。」「環境保護にはさまざまな方法があることを学べた。」といった感想が寄せられました。おもしろ環境まつりは、さまざまな環境問題を自分事として捉え、継続的に行動する方々が増えるよう、今後も工夫を重ねていきます。

災害と気候変動との関連が学べる講座を開催 和歌山県地球温暖化防止活動推進員 養成講座

2024年8月24日
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
紀の川市商工会議所打田支所

和歌山県地球温暖化防止活動推進員養成講座は、地球温暖化防止活動推進員の学習と新たな推進員の募集を目的に行っています。今年度の防災と気候変動をテーマにした県内3か所（田辺市、紀の川市、和歌山市）での開催から、今回は、8月に紀の川市で行った講座の様子を紹介します。

まず初めに「地球温暖化の現状と具体的な対策」についてクイズ形式で紹介しました。次に地球温暖化防止対策について自分たちが日常からできる事を考え、行動につなげていけるような事例を提示し、デカボスコアやデコ活について講義を行いました。

午後からは、大型台風が接近してくるまでに、どのような行動をとるかを具体的に考える「風水害24」というゲームを行いました。このゲームは、大規模風水害時の判断力を高めるため、限られた時間内に避難準備と行動をシミュレーションするものです。会場全体を、台風接近から通過までの24時間の「まち」に見立てます。プログラム・ファシリテーターの乾 昌志氏の進行で、参加者はあらかじめ漁師や農家、SNS愛好家、服屋経営者、自治会長といったさまざまな職業や立場の役割を選び、それぞれの立場が抱える「災害発生時



「風水害24」プログラム体験の様子

に気になること」を念頭に置きながら、川・橋などの地形や高台などの高低差、通行禁止エリアなど各種条件が定められたまちの中を進んでいきます。最終的にまちのどの地点にいるか、どんな行動をとったかなど、行動結果によって生命ポイントが決まります。中には命を落としてしまうプレーヤーも出てきました。

ゲーム終了後は参加者全員で振り返りを行いました。参加者からは、「防災対策のために事前の備えが必要であることに気が付いた。」「年々激甚化する災害の被害を少しでも減らすため、断熱や創エネなど家庭での上手なエネルギー対策を取り入れていきたい。」などの感想が出ました。実際に、2023年6月に起こった豪雨災害の被害に遭われた方からの話もあり、参加者は真剣に聞き入っていました。

リアル『もったいないキッチン』 料理教室を開催

2024年9月7日
伊都・橋本地球温暖化対策協議会
橋本市・紀見地区公民館

第2回リアル「もったいないキッチン」料理教室を開催しました。これは、食品ロス削減に取り組んでいる伊都・橋本地球温暖化対策協議会の主催で、昨

年上映した映画「もったいないキッチン」をきっかけに継続して取り組んでいます。この日は12名が参加し、賞味期限の近い食材や家庭菜園で収穫した消費しきれない夏野菜等を持ち寄り、全10品の料理を作りました。また「和歌山食と暮らしプロジェクト」が推進している、「生ごみを堆肥化する取り組み」の一環として、橋本市が

行っている生ごみ処理機の購入補助金等の支援措置の紹介や、家庭の食品廃棄に関するモニター参加の募集も行いました。参加者からは「足りない食材があった場合に、ピザチーズの代わりにマヨネーズを使ったり、卵の代わりに水溶き片栗粉を使ったり、代用品を使ったレシピを考えることで、調理時間短縮にもつながることが分かり、家庭でも実践したいと思った。」

「未開封の食材をこども食堂に寄付できることが分かった。」「生ごみの水分を十分に切ってからごみ収集に出すことの重要性を再認識できた。」といった感想が寄せられました。次年度は子育て世代の方の積極的な参加を促すため、夏休み期間の開催を企画したいと考えています。



集まった食材



出来上がった料理



料理教室の様子

令和6年度わかやまこどもエコチャレンジ活動レポート 入賞者の表彰式を行いました！

令和6年12月8日（日）おもしろ環境まつりにて、今年度の「わかやまこどもエコチャレンジ」の中から、8名の入賞者に対して表彰をいたしました。



わかやまこどもエコチャレンジとは

県内小学4～6年生を対象に夏休みに、家族と一緒に地球温暖化について考え、楽しみながらエコ活動に取り組み、活動レポートにまとめることにより、家庭内での環境に対する関心を高めることを目的としています。

今年度は、73校、2,720人の応募があり、その中から金賞1作品、銀賞2作品、銅賞5作品が入賞しました。

金賞

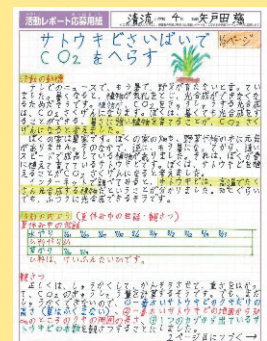
◆印南町立清流小学校4年生 矢戸田 慈さん

活動内容：サトウキビの栽培に関するCO₂の吸収量の考察

審査員のコメント：植物とCO₂との関連に着目しているのが良い。

実際に育てたサトウキビのCO₂吸収量を考えたことが良い。

受賞者の感想：びっくりしました。今後は、ソーラーパネルで家電を動かすエコ活動してみたい。



金賞の作品（一部）

銀賞

◆岩出市立岩出小学校4年生 山本 花菜さん

活動内容：調査による岩出市内のリサイクルBOXの地図作製

審査員のコメント：リサイクルボックスの啓発としてとても良い。調査活動やまとめ方に努力が感じられる。

受賞者の感想：いろんな種類のリサイクルBOXがあることを知って驚いた。リサイクルBOXを利用する人が増えるきっかけになればいい。

◆紀の川市立粉河小学校4年生 山本 美緒さん

活動内容：太陽光の発電量と消費電力の調査及び窓のシェードの効果検証

審査員のコメント：太陽の光、熱についての気付きに、未来の可能性を感じる。シェードの有無とエアコンの設定温度の2つの要素の比較が良い。

受賞者の感想：これからも節電を心がけて二酸化炭素を減らす取組を続けていきたい。

銅賞

◆和歌山市立宮小学校6年生 織田 心海さん

活動内容：生ごみ減量を意識した料理や肥料づくり

◆有田川町立藤並小学校6年生 東 遥生さん

活動内容：脱プラスチックを目的とした牛乳のタンパク質を利用したプラスチック作成

◆紀の川市立長田小学校5年生 山中 彩華さん

活動内容：入浴時の節水を通じたCO₂削減量の見える化

◆紀の川市立池田小学校4年生 岩田 華歩さん

活動内容：エコバッグを使用によるCO₂削減効果の検証

◆智辯学園和歌山小学校4年生 鳥 翔太郎さん

活動内容：太陽熱を利用した温水のお風呂への活用



表彰式での集合写真



入賞者への記念メダル

わかやまこどもエコチャレンジHP
入賞作品の詳細は、こちらからご覧いただけます。



イベント情報

和歌山アースデイ 2025
ビーチクリーン&マルシェ
2025年4月19日(土)~21日(月)

- ◆主催：和歌山アースデイ WBC2025 実行委員会
- ◆後援：和歌山県
和歌山県教育委員会
紀の川市地球温暖化対策協議会「エコネットきのかわ」
NPO法人わかやま環境ネットワーク
- ◆協力：アイランドストリーム
アースメイト
一般社団法人加太・友ヶ島環境戦略研究会
NPO法人根来山げんきの森倶楽部
米市農園



運動海@友ヶ島

日時：4月20日(日) 8:30~16:00
集合場所：友ヶ島汽船乗船場 8:30受付開始
乗船費：大人2,200円 子ども1,100円
参加人数：50名(要予約)

ビーチクリーン@田辺市神島

日時：4月21日(月) 9:00~15:30
海ごみの調査とビーチクリーン



▲お申し込み
フォーム



◀お問合せ・
お申込み

里山整備活動への助成制度
令和7年度募集

~「里山林活性化による
多面的機能発揮対策交付金」の募集をします~

住民のみなさんがグループで森林資源の活用や里山環境の改善を目的に活動することにより、よりよい地域づくりを支援する林野庁の助成制度です。

- ◆実施主体：木の国協議会
- ◆助成期間：令和7年度(1年間)
- ◆助成の対象となる活動：里山・竹林の整備、山菜・きのこ・紀州備長炭の原木、木質バイオマスなど森林の様々な資源の活用のための活動で、3年以上継続して実施する活動
- ◆申込書の提出メ切：4月下旬から5月、詳細はホームページにて
詳細、申込書類等の様式については、ホームページに掲載 公式WEBサイト：<https://kinokunik.net>
- ◆お問合せ：木の国協議会(〒641-0014 和歌山市毛見996-2 NPO法人わかやま環境ネットワーク内) 電話：073-499-4762 [平日10~16時]

和歌山市市民公益活動登録団体
クリーン&コネクト和歌山

活動内容：和歌山市の清掃活動
活動場所：紀の川等河川敷、和歌山城など
募集期間：随時募集中
お問合せ：cleanconnectwakayama@gmail.com

県センター通信

昨年12月11日に大阪で行われた「デコ活地域交流会in近畿ブロック」では、デコ活につながる5つの事例が紹介されました。「ホテル事業者グループによるプラスチック製アメニティ削減」、「廃油を回収して車輛の燃料として循環利用するしくみづくり」、「地域の信用金庫向けのEV試乗研修会の開催」、「祇園祭でのリユース食器導入」といった事例に加えて和歌山県からは「リアルもったいないキッチン」の取組を紹介しました。本誌内でも取り上げたこの取組は、これまでにのべ14回開催され、これまでに100品以上のレシピが生まれています。この取組の大きな可能性は「食を通じたコミュニティづくり」にあります。講習会に参加した人が賛同し「次は私たちが主催で」と、新たな企画が生まれて、つながりの輪がどんどん広がり、「持続可能なくらしづくり」について情報交換できる良いコミュニティとなっています。詳しい取組レポートは「食と暮らしプロジェクトnote」をご覧ください。



▲食と暮らし
プロジェクトnote



発行／和歌山県脱炭素政策課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-441-2674 FAX: 073-433-3590
mail: e0320003@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL: 073-499-4734 FAX: 073-499-4752
mail: wenet@wenet.info